



健常若年成人男性における口腔脂質感受性とストレスコーピングに関わる生活習慣因子との相関の検討

著者	田中 太邦
学位授与機関	Tohoku University
学位授与番号	11301甲第18604号
URL	http://hdl.handle.net/10097/00126215

論文内容要旨

学籍番号 B5DD5027

氏名 田中 太 邦

脂質を検知する能力である口腔脂質感受性（OFS）は、日常の脂質摂取を含むヒトの摂食習慣と関係がある。すなわち、適切な OFS を維持することは健康にとって重要である。さらに、ストレスや睡眠などの生活習慣因子が脂質の摂取に影響を与える可能性がある。しかしながら、OFS と、ストレスマネジメントまたは睡眠との間の相関関係は、多くが未解明である。それ故、著者は健常若年成人男性における、OFS のストレスマネジメントや日中の眠気に関する生活習慣との相関性を調べた。

生活習慣に関する質問を含む、健康に関する自記式アンケートを完了した 22 人の被験者（ 27.2 ± 6.0 歳）について、OFS、3 つの基本味（甘味、塩味および酸味）並びに BMI を測定した。次に味覚の感受性とストレスマネジメントおよび日中の眠気との相関を分析したところ、個人的な心配事の相談相手の数（ストレスマネジメントやソーシャルサポートに関する質問）は OFS と正に相関したが（ $P = 0.041$ ）、他の味覚敏感度とは相関しなかった。対照的に、ストレスマネジメントに関する他の生活習慣因子（リラックスの頻度、イライラ時や心配時の摂食の頻度並びに自分の睡眠に対する満足度）および日中の眠気は、試験した他の味覚感受性と同様、有意な相関は得られなかった。

これらの結果は、健常若年成人男性における OFS とソーシャルサポートの程度との独特の相関関係を特徴付けるものであり、OFS にみられる個人差についての新たな洞察を与えるものである。したがって、ソーシャルサポートの程度を測定することは、OFS 障害の評価に役立ち、ストレス過食の予防に寄与する可能性がある。